

1-56 地域内の牛ふん・豚ふん・鶏ふんを原料とした堆肥
(宜野座村堆肥センター)

○ 宜野座村堆肥センターは主に村内の畜産農家から出される牛ふん・豚ふん・鶏ふんを活用し、「宜野座堆肥」を製造。これにより管内の耕畜連携型農業を促進。

国内資源の種類 肥料の種類・肥料名称

- 牛ふん
 - 豚ふん
 - 鶏ふん
- 種類：堆肥（特殊肥料）
 - 肥料名：宜野座堆肥

作物 主成分の含有量(%）、特徴等

- 野菜（葉菜類）
- さとうきび 等

N	P	K	C/N比
3.3	5.5	4.0	9.8

・基肥と土壌改良資材として利用

取組の経緯・内容・成果（見込み）

- 取組の経緯

 - 沖縄県宜野座村は、JAおきなわが管理・運営していた堆肥センターを引き継ぎ、主に村内の畜産農家から出る牛ふん・豚ふん・鶏ふんを管内で耕種農家等が利用し農地等へ還元する耕畜連携型農業の促進を図るため、平成15年に宜野座村堆肥センターを整備。
 - 「宜野座エコ農産物」の生産を促すため、平成22年に「有機の里宜野座村」を宣言。
- 取組の内容

 - 主に村内の畜産農家から牛ふん・豚ふん・鶏ふんを回収し、「宜野座堆肥」を製造・販売。販売先の要望に応じて配達・散布まで対応している。
 - 堆肥製造のほか、伐採木由来のおが粉の生産・販売。牛舎の敷料のほか、きのこの菌床等に利用されている。
- 成果（見込み）

 - 堆肥の製造・農地への還元が行われ、耕畜連携型農業が実現された。
 - 年間5,000tの家畜排せつ物を受け入れ、2,500～3,000tが製品化されている。

主たる取組主体と肥料利用までの流れ



今後の課題・取組

- 【課題】
- 家畜ふん尿による重機の腐食
 - 施設の老朽化
- 【取組】
- 攪拌機の導入の検討

